

### 若い生産者の声 次世代の営農に

——妹背牛、秩父別、沼田の3町を管轄するJA北いぶきの役員改選で、代表理事専務に就任されました。今年、3農協の合併後20年の節目を迎え、主要団体のナンバー2に選任された率直なお気持ちと、今後の展望をお聞かせください。

黒田洋一組合長（沼田町）を補佐する使命に重責を感じつつ、組合員の営農と生活を守るJAの役割を全うしたいです。

原油価格の高騰や円安の影響を受けて、

なかやす  
とおる  
中易 徹さん（2区）



生産者にとって欠かせない肥料の価格も値上がりしています。JA管内の農産物販売総額の8割以上を占めるコメを有利に販売するため、知恵を出し合いたいです。

——仲間の農家と立ち上げた農業生産法人「合同会社e.N.K」でコメを栽培し、個人運営の「中易農場」で和牛を繁殖するユニークな複合経営を実践しています。



水稻農家の4代目。酪農学園大系列の短大を卒業した20歳から農家として働き、平成16年に経営移譲しました。ホルスタインを肥育していた父の代から引き継いで1年目に強風の被害に遭い、もみや牛舎の屋根が飛ばされてしまいました。経営上のリスクを分散するため、当時、高値で取り引きされていた子牛の繁殖を始めました。

——水稻栽培と和牛の肥育で経営は安定しましたか。

母牛の発情状態を観察しても分からないほど、人工授精に必要な知識や技術が乏しい中での挑戦。最初は失敗ばかりで、

畜産の先輩農家や獣医の方からアドバイスをいただく日々でした。受精から分娩までに285

日かかる日数は、人間とほぼ同じ。産まれてから12カ月以内によやくセリにかけられ、およそ2年間の経費は水稻の利益で補いました。

当時の空知農業改良普及センター北空知支所長が畜産関係に明るく、助言をいただきました。牛1頭当たりの面積を広くする環境が大切。牛舎内を清潔に保ち、牛の健康状態が良くなれば、仕事の効率化につながります。丈夫な子牛が産

まれるようになった5年ほど前から経営が軌道に乗り、2頭だった牛は60頭に増えました。

——農業における妹背牛町の特色を教えてください。

山のない妹背牛は平地の面積が広く、国営・道営の事業では場の大区画化が進んでいます。人工衛星を活用した精度の高いRTK-GPSシステムをいち早く導入するなど、スマート農業の推進にも理解のある町です。町内には今年度、30代夫婦を含む3人が新たに農業を始めました。希望を持って営農をする若い生産者の意見をよく聞き、思い描く農業を実践できるように支えていきたいです。